

平成 28 年 8 月 1 日号

消費生活 Q&A

炎天下の車内で起こりうる事故って何

Q 使い捨てライターが高温の車内で破裂することがあると聞いた。夏の車内で起こる事故にはどんなものがあるのか。

A J A F（一般社団法人日本自動車連盟）が 2 0 1 2 年 8 月に気温 3 5℃で行ったテストでは、車内温度は 5 7℃、ダッシュボード付近では 7 9℃にまで上昇、サンシェードを装着しても車内温度は 5 0℃、すべての窓を 3 cm開けても車内温度は 4 5℃を超えました。

未開封の缶入り炭酸飲料や使い捨てライター、乾電池なども高温の車内に放置すると高温により破裂する危険があります。吸盤や芳香剤の容器がレンズの働きをして火災につながるおそれもあります。

最近では車内温度を瞬時に下げられる冷却スプレー缶の人気の高まっていますが、その多くには、LPG という可燃性ガスが使用されています。LPG は空気より重いため、車内に滞留しやすい性質があり、その状態でライターなどを使用すると引火の危険があります。消臭剤やガラスクリーナーにも可燃性ガスが使用されていることがあるので、使用後には必ず車内の空気を十分に入れ替えることが大切です。

事故やけがにつながるような物品は車内に置きっぱなしにしないように注意しましょう。

問合せ・・・消費生活センター ☎（４２２）２１５５